

現代社会「青年の主張コンクール」

公民科 村野光則

1. 授業の目的と概要

(1) 授業の目的

ここ数年、「現代社会」の授業の中にコミュニケーション・トレーニングを取り入れている（2002年度本校紀要参照）。授業では、手話・スピーチ等を活用して、豊かな表情、効果的な身ぶり手ぶり、多彩な声の表現力の習得を目指している。こうした授業を通じて、国際化する社会におけるコミュニケーション能力を高めることを目的としている。

(2) 授業の概要

今回の課題は、社会的なテーマを一つ選び、それを1分間でスピーチするというものである。そして、その1分間の中で、できるだけ多くの声の表現を用いること、効果的な身ぶり手ぶりをを用いることを課している。本時の授業では、出席番号の後半の20名の生徒のスピーチを行い、スピーチ終了後に全体を通じての感想を記入させた。

2. 評価の観点

生徒にはあらかじめ採点票のサンプルを渡し、どのような観点で評価するかを伝えてある。（資料1）これらの観点を参考に生徒に原稿を作らせ、それに強弱やしぐさ等を記入したものを提出させた（資料2）。当日はビデオで撮影し、タイマーで時間を計った。生徒には、時間をオーバーしても中断することはしないが、評価はあくまで1分の範囲内で行うと伝えておいた。

3. スピーチを終えて

生徒たちは、普段おとなしい生徒も含めて、それぞれ自分なりに精一杯表現していた。まだまだ声量など物足りない点もあるが、概ね授業の所期の目的は達せられたと思われる。

また、お互いのスピーチを聞くことで、表情や視線の大切さ、効果的なしぐさ等がよくわかったようである。以下は生徒の感想である。

「声量が大きく、口を大きく使っている人の声は聞きやすく、また、視線を多くの人に向けているだ

けでもスピーチの内容を聞きたくなかった。また、声の強弱・高低・アクセント・緩急の差が大きければ大きいほど、その部分に説得力があり、聞いている人に伝わってきた。」

「表情が思ったよりも効果があることを知りました。視線がはっきりこっちを向いていると、こっちに向かって話しかけているという気がします。私の席が前の方だったためかも知れませんが、静かな声も使い方によってはとても説得力がありました。何より自信を持って話すことが一番だったと思います。」

「ジェスチャーとか、みんなとても工夫していて面白かった。声の高低や大小など、スピーチする声を少し変えるだけでも、聞いている方はとてもひきつけられるんだと思った。あと、発表者の表現で場の雰囲気はすごく変わっていることも驚いた。」

4. 研究協議

研究協議では、評価の際にスピーチの内容も含めるべきではないかというご意見をいただいた。今回の授業の目的が表情や声の表現力の向上が主眼だったため、生徒にはスピーチの内容は評価の対象としないと明言していた。しかし、なかにはたいへん優れた内容のスピーチもあり、その点を評価する必要があると感じていた。そのため、以後のクラスでは、感想用紙に「最も内容がよかった人」の名前も挙げさせ、それを後日発表することで、優れた内容のスピーチをした生徒を成績とは別に評価することとした。

資料1

現社実技テスト（スピーチ）採点票

1年 R・K・U 組 No. _____ 氏名 _____

声量	強弱	高低	アクセント	緩急	間	音色	しぐさ	表情	視線

各5点

/50

注) ①「声量」は通常の声量が最後部まで十分な大ききで聞こえるものを満点とする。

②「強弱」「高低」「アクセント」「緩急」「音色」「表情」は明らかにわかるもの。

③「間」は緊張感を持ったもの。

④「しぐさ」は効果的なもの。

⑤「視線」はしっかりと見つめているもの。(目に力があるもの)

